

欠けた歯の

修復に使われる詰め物！

歯が欠けると、噛み合わせがおかしくなり、欠けてしまった部分を修復して噛み合わせを良くしないと虫歯の原因になります。欠けた部分の修復には詰め物を入れます。歯の治療に欠かせない詰め物の主なものは、インレー（金属）、コンポジット・レジン（プラスチック）です。



その他、今まで広く普及し、比較的多く使われてきたものにアマルガムがありました。奥歯（臼歯）に黒っぽいものが詰まっていれば、それがアマルガムです。このアマルガムは「歯科用水銀アマルガム」の略で、健康保険の適用材料として認定され一般的に使用されてきましたが、アマルガムには水銀が含まれており、口の中で劣化し腐敗しやすい傾向があるため、人体に影響を及ぼす恐れがあるとの報告を受けて、70年代をピークに近年では使用されることがありません。

インレーは歯にぴったりとはめ込むために、歯を削って型をとり、成型してからはめ込みます。歯の高さにまったく段差がないようにしないと噛み合わせがおかしくなります。段差があると、そこから虫歯（2次カリエス）がはじまるからです。また、詰めたことによって噛み合わせに変化が起これると、顎関節症の原因になるため、詰めたあと、カーボン紙で念入りにチェックして調整し精密な治療をします。インレーは、金属でも白金化金やパラジウムを使用するので強度の点では充分です。

コンポジット・レジン（プラスチック）は強度は弱く奥歯には使えません。前歯部のみに使用します。また、水を吸い込んで変質したりするので、長期間にわたる使用はできませんが、歯との密着性があり、接着剤を使わなくてもよいといったメリットがあります。現在多く使用されているレジン（プラスチック）は、光を当てるだけで固まる光重合レジンです。患部を削って消毒し、そこにレジンをつけて、さらに光を当てると固まってしまうといった利用価値の高いものです。



インレー

レジン

詰め物の材料は、より高度な物が開発され使用されていますが、要は治療技術です。詰め物は精密さが要求されます。段差をつけないようにミクロの単位で調整をします。また、症状によって最も適切な詰め物を入れることです。欠けた歯を放置しておくと健康を害する原因になります。ご注意ください。



アマルガム

←（これがアマルガムです。近年では使用されることがありません）

お知らせ

飲み残したビールは、別の瓶にでも入れて密封して保管します。天ぷらの衣を作るときに小麦粉を練る水の代わりに使います。小麦粉の中にビールの小さな泡が定着してキメ細かな衣になるので、パリッと揚がり、歯ざわりもシャキッとします。